



2003年6月、創立10周年で第20回公演を実現した

釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔



片桐茂貴代表

「公演を飾る。たった5人からのスタートだった。ちよつど時代は企業メセナという言葉に代表されるように、文化活動

5人で旗揚げ

「高校演劇が盛んな時代でした。今でも高校の合同演劇が開かれているのは、札幌と釧路だけ。もう35回目を数えます。」

まさに演劇を通じて地域文化の推進役に徹する活動は続けられる」と語る若者集団。そもそもは釧路北高校の演劇仲間が原点。1993年に憧れの存在、第三舞台の鴻上尚史原作の「朝日のような夕日をつれて」で、旗揚げする...という思いでし

演劇 劇団 東風

道東から風を起こす

常に視点を地元において

松了氏が釧路に長期滞在という夢のようなことが実現した。「あの時がわれわれの劇団にとっての大きな節目でした」とテンションが上がる。それもそうだろう。あの岩松氏と同じ時間を持てたのだから...

1998年創立5周年で記念すべき10回公演を成功させ、それ以降はオリジナル脚本で芝居をつくり上げていった。本を書いたのは前田

慶。劇団の規模も気持ちも知る「座付作家」の存在は大きかった。まさに自分たちの芝居が前に進み出した。2000年の公演で通算観客動員数は5000人を突破した。

高校演劇も支援

翌年には札幌での「北海道舞台芸術祭」に参加。見事に奨励賞を獲得した。しかし、常に視点は地元に着かれている。決してぶれない。彼らは高校演劇の審査員にもなった。全道大会へ向かう高校生達の手助けも続く。そして今、道立釧路芸術館の依頼で誕生したキャラクター「カモメンジャー」は地元のちびっ子に大人気だ。

に上げ潮でした」という。1996年には事業予算が組まれて劇作家の岩